東亞天文協會 1934年四月 例會の記事

四月15日15時，花山天文臺にて開催．山本會長が座長席につき，まづ

高城武夫氏より會の現況，ならびに最近各方面より受理せる寄贈圖書等の報告あり．次で座長は講演者小山理學士を紹介す．こゝで

小山秋雄氏は，平素その專門とする「變光星」の天文學につき，約一時間半にわたつて講話された．內容は，三百年前のミラ星の發見史から，アルゴルやセフエ座δ星等の如き有名な變星の發見や觀測の歷史を述べ，次で，種々の光度曲線を圖示しつゝ，全部の變星を

1) ミラ型
2) セフエ座δ星型
3) 不規則型 (a) 白鳥座SS星型 (b) 冠座R星型 (c) オリオン座α星型
4) たて座R星型
5) 食變星 (a) アルゴル型 (b) 琴座β星型
6) 新 星

に分類すること，それから一轉して實地觀測についての詳細親切な說明等があつた．次いで座長は柴田理學士を紹介する．

柴田淑次氏は，最近發見されたジャクソン彗星(1934a)の紹介と，シヴスマン・ワハマン彗星1925 II の去る三月10日—14日に於ける急激な增光(18.5→13)のこと，又去る三月北阿アルゼリル天文臺の Boyer 氏が發見した小遊星1934EA の件と，其の軌道が42°といふ珍らしい大傾斜を持つてゐることなどを話された．次に座長の指名により

宮本正太郎氏は，最近ベルリンより報ぜられた木星面上の新斑點について，氏自身の實地觀測結果と對比しながら興味深い講話をせられた．最後に，

山本座長は，恰も來會中の葦部夫人の所有せられる口徑47cmの拋物鏡のこと，それから，昨年來英國方面に於いて新たに輿論の的となつてゐる二十四時制と其の將來に關する解說をせられ，此の問題が早晚我が國にも起るについて，會員たちが一般社會の動きをリードすべき責任など高調せられ，17時閉會した．